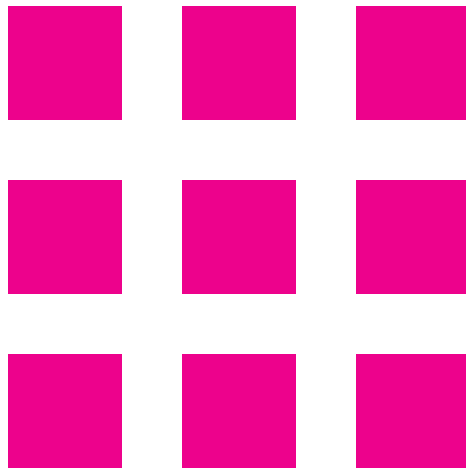


合格テキスト

日商簿記 **3** 級



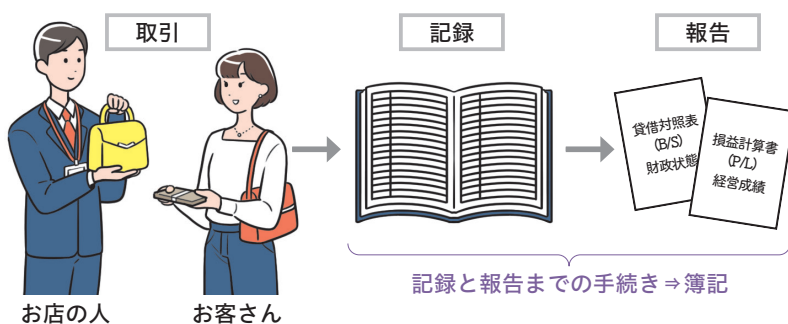
簿記の意義

1 簿記とは

簿記の語源は「帳簿記入」の略で、日々の取引を帳簿と呼ばれるノートに記入して記録することが簿記です。

現在、簿記といえば帳簿に記入して記録するだけでなく「報告すること」までの一連の手続きをいいます。ここで報告するために作成される報告書のことを財務諸表といいます。

《 簿記とは、取引を、帳簿に記録し、報告すること 》



2 簿記の目的

簿記では、以下に示す2つの目的を達成するために、さまざまなルールに従って帳簿記録や資料作成などを行います。

1 財政状態を明らかにすること（貸借対照表の作成）

財政状態とは、企業に「現在（一定時点において）、何がいくらあるのか」を表すものです。

企業は利害関係者^{*}に対して財政状態を明らかにするために^{たいしやくたいしやうひやう}貸借対照表（Balance Sheet：B/S）という報告書を作成します。

貸借対照表には現金や預金の残高、所有する建物の価値、借金がどれくらいあるかなどを記載します。

★利害関係者

利害関係者とは、企業をとりまくすべての人をいいます。

内部の利害関係者…株主、経営者、従業員など

外部の利害関係者…税務署、銀行など

2 経営成績を明らかにすること（損益計算書の作成）

経営成績とは、企業が「一定期間に、どんな活動をし、その結果いくらもうかったのか、または損したのか」を表すものです。

企業は利害関係者に対して経営成績を明らかにするために^{そんえいせきいさんしよ}損益計算書（Profit and Loss Statement：P/L）という報告書を作成します。

損益計算書には、企業活動による収入や支出の内容などを記載します。

3 簿記の種類

簿記には、商品売買業^{*}などで用いられる「商業簿記」、製造業^{*}などで用いられる「工業簿記」などがありますが、このテキストでは「小規模な株式会社が営む商品売買業」を前提とする「商業簿記」を学習します。

★商品売買業と製造業

商品売買業とは、商品を仕入れて、販売する業種のことをいいます。

製造業とは、材料を仕入れて、加工し、製造した製品を販売する業種のことをいいます。

4 簿記の前提条件

簿記の前提条件として、**会計単位・会計期間・貨幣金額表示**の3つがあります。

1 会計単位

簿記で記録・計算・整理する対象となる範囲を**会計単位**といいます。企業の簿記の会計単位は、一つひとつの企業であり、その**企業が行った取引**を簿記の対象とします。

2 会計期間

企業は継続して活動を行うため、通常1年ごとに区切りをつけて、報告書を作成し、財政状態や経営成績を報告します。この定期的に区切られた期間を**会計期間**といいます。

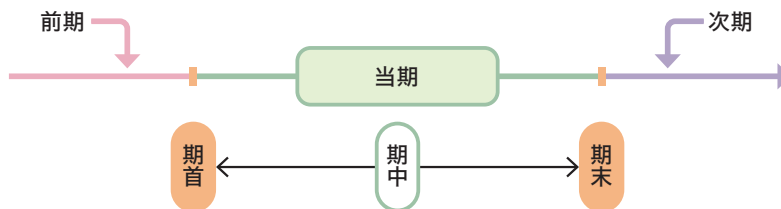
会計期間の始まりを**期首**、終わりを**期末**、期首と期末の間を**期中**といいます。

また、現在の会計期間を**当期**、1つ前の会計期間を**前期**、1つあとの会計期間を**次期**または**翌期**といいます。

株式会社は、任意に期間を定めることができますが、4月1日から翌年の3月31日までを会計期間とする場合が大半です。なお、個人企業は暦に従って1月1日から12月31日までを会計期間とします。

たとえば、企業は損益計算書を作成して、いくらもうかったか（経営成績）を報告しますが、期間を区切らなければ、いくらもうかったのかを把握することができません。そこで、会計期間を設定し、期間を区切ります。

会計期間



3 貨幣金額表示

簿記で記録するものは、すべて貨幣（金額）で表示できるものでなければならないという前提があります。

たとえば、社内の雰囲気や経営者の手腕など、貨幣（金額）で表すことができないものは簿記の記録対象にはなりません。

簿記の記録対象になる？



1億円…なる



経営者の手腕…ならない

確認問題

01

解答解説 → P286

次の空欄①～④に当てはまる適切な語句を下記の語群から選んで記入しなさい。

語群 貸借対照表 損益計算書 会計期間 利害関係者

- 簿記の目的は、財政状態と経営成績を明らかにすることですが、財政状態を明らかにする報告書として（①）を、経営成績を明らかにする報告書として（②）を作成します。
- 簿記は、企業の経営者はもちろんのこと、外部の（③）に対しても有用な情報を提供するという、重要な役割を果たす手続きです。
- 企業は継続して活動を行うため、（④）を定めて報告書を作成し、財政状態や経営成績を報告します。

①（ ） ②（ ） ③（ ） ④（ ）

ここが POINT

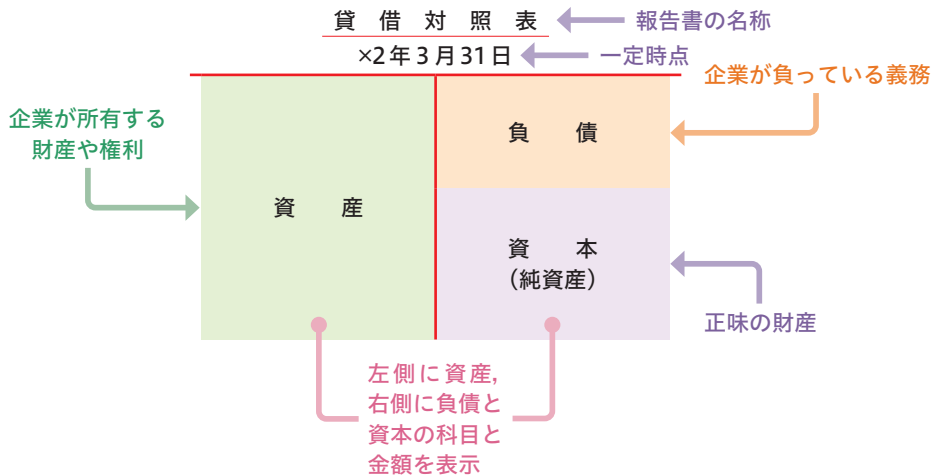
簿記とは、「取引を、帳簿に記録し、報告すること」をいう。

財務諸表と簿記の5要素

簿記の目的は、一定時点の財政状態と一定期間の経営成績を明らかにすることです。そのために報告書として貸借対照表と損益計算書を作成します。この2つの報告書をまとめて財務諸表（Financial Statements：F/S）といいます。

1 貸借対照表（B/S）

一定時点の財政状態を明らかにするための貸借対照表には、次のような要素を記載します。



貸借対照表の具体的な記載は以下のようになります。作成手順や形式については第3編のテーマ27で学習します。

資 産	金 額	負債及び純資産	金 額
現 金	31,000	買 掛 金	12,220
売 掛 金	10,000	借 入 金	3,000
貸 倒 引 当 金	△ 200 9,800	未 払 法 人 税 等	2,000
商 品	100	未 払 費 用	30
前 払 費 用	50	資 本 金	20,000
備 品	5,000	利 益 準 備 金	1,000
減価償却累計額	△ 2,700 2,300	繰越利益剰余金	5,000
	43,250		43,250

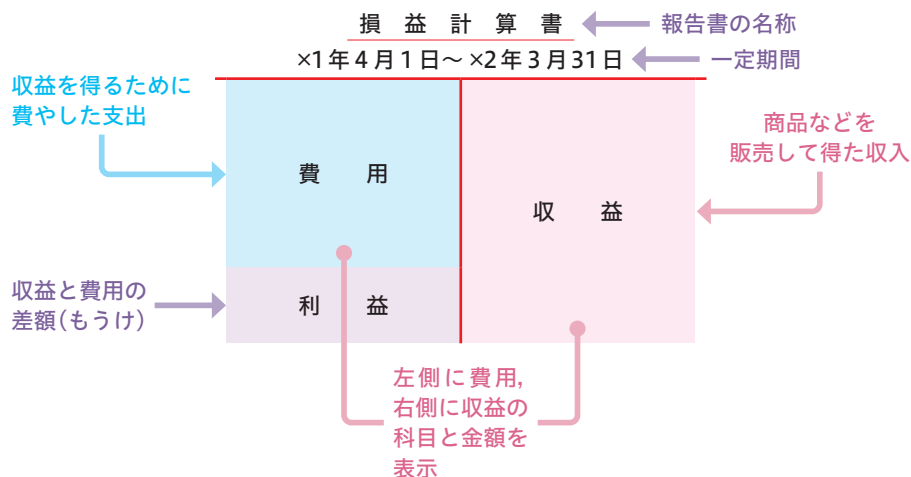
(注) 表中の△マークは「控除する（マイナスする）」ことを意味します。

貸借対照表の資産・負債・資本の関係は、次のような式で表すことができます。

- ・資産 - 負債 = 資本(純資産) … 資本等式
- ・資産 = 負債 + 資本(純資産) … 貸借対照表等式

2 損益計算書 (P/L)

一定期間の経営成績を明らかにするための損益計算書には、次のような要素を記載します。



損益計算書の具体的な記載は以下のようになります。作成手順や形式については第3編のテーマ27で学習します。

損益計算書

〇〇株式会社 ×1年4月1日～×2年3月31日 (単位:円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	11,500	売上高	26,500
給料	8,820		
貸倒引当金繰入	120		
保険料	70		
減価償却費	900		
支払利息	90		
法人税, 住民税及び事業税	2,000		
当期純利益	3,000		
	26,500		26,500

損益計算書の収益・費用の関係は、次のような式で表すことができます。

- ・収益 - 費用 = 利益(資本を増やす金額) … 損益等式
- ・費用 + 利益 = 収益 … 損益計算書等式

3 簿記の5要素

貸借対照表に表示する**資産**、**負債**および**資本**、損益計算書に表示する**収益**と**費用**を、**簿記の5要素**といいます。それぞれの要素は、記録（報告）するとき、その内容に合わせて名称をつけます。この名称のことを**勘定科目**といい、第2編のテーマ04以降で詳しく学習していきます。

また、この簿記の5要素について、記録・計算・集計し、最終的に財務諸表を作成します。つまり、簿記の手続きは、「**簿記の5要素の増減について記録すること**」ということができません。

確認問題 02

解答解説 → P286

次の空欄①～⑤に当てはまる適切な語句を下記の**語群**から選んで記入しなさい。

語群 資産 負債 資本 収益 費用

財政状態を明らかにする貸借対照表と経営成績を明らかにする損益計算書は、次のように内容を表示します。

貸借対照表		損益計算書	
(①)	(②)	(⑤)	(④)
	(③)	当期純利益	

① () ② () ③ () ④ () ⑤ ()

ここが POINT

簿記の手続きは、企業が**簿記の5要素の増減**を記録すること。

企業の**財政状態**および**経営成績**を明らかにすることを目的として、貸借対照表に記載する**資産・負債・資本**の各項目、損益計算書に記載する**収益・費用**の各項目について、記録・計算・集計する。

日常の手続き

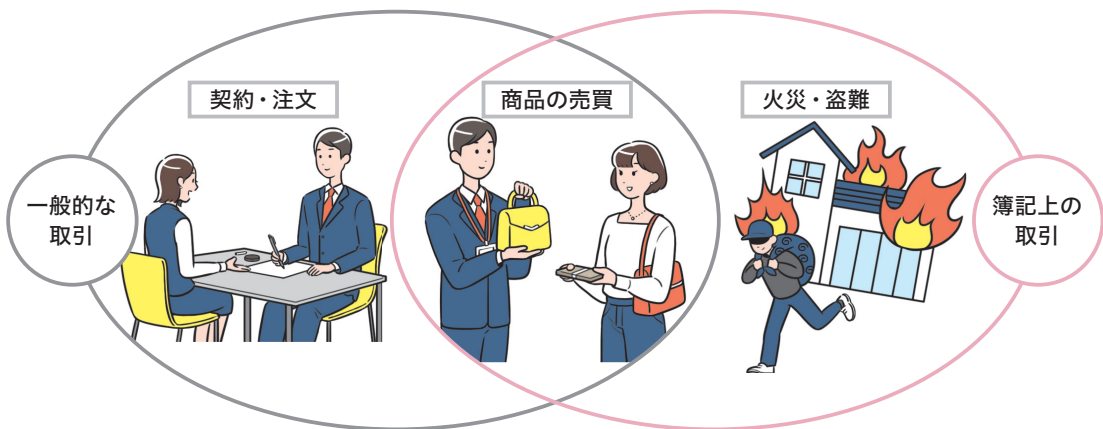
1 記帳のルール




簿記では、帳簿に記録（記入）することを「記帳する」といいます。

1 取引

簿記で記録する内容は、原則として、簿記の5要素の増減です。これを「簿記上の取引」といいますが、「一般にいう取引」とは少し異なります。

簿記上の取引になるものとならないもの



取引例	
<p>商品の売買</p> <p>一般的な取引であり、簿記上の取引でもある場合</p> 	<p>・商品の売買取引や代金を現金で支払う取引など</p> <p>↳ たとえば、 商品を仕入れる : 商品という資産が増える 代金を現金で支払う : 現金という資産が減る</p> <p>⇒ 簿記上の取引</p>
<p>契約・注文</p> <p>一般的には取引であるが、簿記上は取引とならない場合</p> 	<p>・建物を借りる契約や商品を電話で注文するなど</p> <p>↳ 契約や口約束をするだけでは資産・負債・資本(純資産)が増減したり、収益・費用が生じたりしません。</p> <p>⇒ 簿記上の取引ではない</p> <p>※契約にもとづいて、実際に賃料を支払ったり、商品を仕入れたときには簿記上の取引になります。</p>
<p>火災・盗難</p> <p>一般的には取引とはならないが、簿記上の取引となる場合</p> 	<p>・現金や商品が盗まれた場合や火災により建物が焼失した場合など</p> <p>↳ たとえば、 現金が盗まれた : 現金という資産が減る 火災で建物が焼失した : 建物という資産が減る</p> <p>⇒ 簿記上の取引</p>

簿記では、「簿記上の取引」のみを記録します。

確認問題 03

解答解説 → P286

次の1.～4.のうち簿記上の取引にならないものを番号で答えなさい。

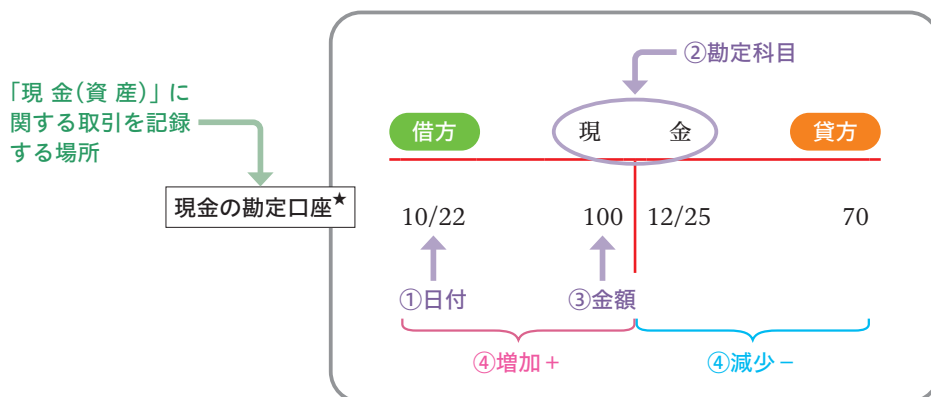
- 1 か月後に現金100,000円を借り入れる契約をした。
- 地震により商品50,000円が破損したので、廃棄処分した。
- 会社の現金のうち30,000円が紛失した。
- 従業員を1か月250,000円の給料で雇い入れた。

2 記帳内容

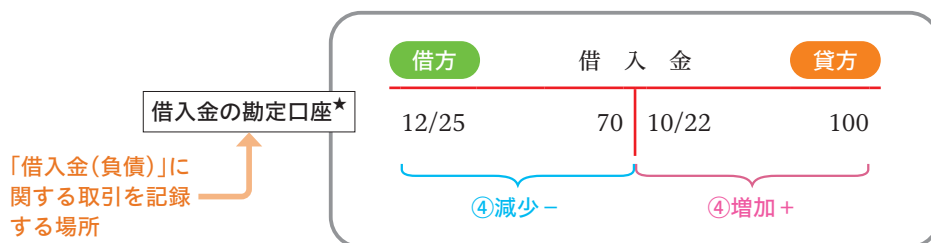
取引について、^{かんじょうこうざ}勘定口座に次の内容を記録します。勘定口座とは、簿記上の取引を項目ごとに記録する場所をいいます。

① 日付	取引のあった日付です。
② 勘定科目	勘定につける名称のことです。勘定とは、記録・計算単位のことをいい、簿記の5要素にしたがって設定されます。勘定に 勘定科目 をつけることにより、取引を項目ごとに記録する場所である 勘定口座 が完成します。たとえば、現金に関する取引であれば、資産の勘定に「現金」という勘定科目をつけることで、現金に関する取引を記録する場所である「現金」の勘定口座が完成します。
③ 金額	各勘定科目の増減を金額で表します。
④ 増減（発生・消滅）	各勘定科目の増減は、勘定口座の左側と右側に書き分けることで記録します。なお、簿記では、左側のことを 借方（かりかた） 、右側のことを 貸方（かしかた） といいます。この借方と貸方に、借りる、貸すという意味はありません。 単なる左側と右側 のことを意味します。

たとえば、「現金（資産）」に関する取引は、下記のように記録します。



なお、^{かりいれきん}借入金（負債）」に関する取引の場合、貸方が増加、借方が減少になります。



★勘定口座

勘定口座は単に「勘定」と省略することが一般的です。現金の勘定口座であれば「現金勘定」、借入金の勘定口座であれば「借入金勘定」と省略します。

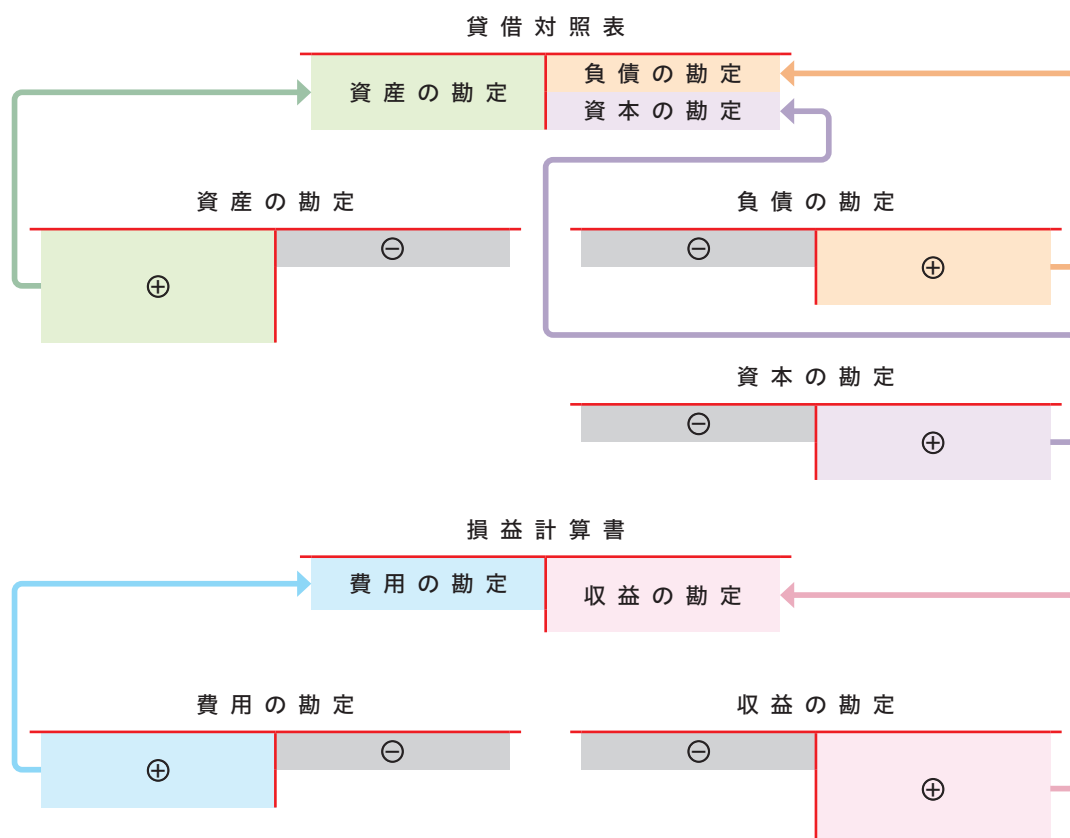
本書でも〇〇の勘定口座は「〇〇勘定」と省略して説明します。

3 増減（発生・消滅）を記帳するときのルール

記帳する際に、その要素が、5要素（資産・負債・資本・収益・費用）のいずれに該当するかによって、また、その要素が増えた（発生した）場合、減った（消滅した）場合によって、勘定の「借方（左側）に書くのか、貸方（右側）に書くのか」が決められています。

- ① 資産の勘定は、増加を借方（左側）、減少を貸方（右側）
- ② 負債の勘定は、減少を借方（左側）、増加を貸方（右側）
- ③ 資本の勘定は、減少を借方（左側）、増加を貸方（右側）
- ④ 収益の勘定は、消滅を借方（左側）、発生を貸方（右側）
- ⑤ 費用の勘定は、発生を借方（左側）、消滅を貸方（右側）

記録する5要素の勘定の増加（発生）側と、貸借対照表・損益計算書の5要素の記載場所は一致する関係にあります。



ここで示した借方（左側）・貸方（右側）の記入は、記録や報告をするときだけでなく、記録した内容を読み取るときなどにも必要な簿記の重要なルールです。確実に理解してください。

5要素の増加側（発生側）を覚えましょう。減少（消滅）は、その反対側になります。

2 仕訳と転記

取引（勘定科目の増減）は、**仕訳**^{しわけ}による指示にもとづいて、勘定に記録します。

1 仕訳

仕訳とは、取引を借方要素と貸方要素に分けて日付順に記録することをいいます。

仕訳を記録する帳簿を**仕訳帳**^{しわけちょう}といい、簿記のルールに従って記録した企業の日記帳のようなものです。

次の **Step1** から **Step4** により、仕訳を考えます。

- Step1** 取引の内容を把握する。
- Step2** 2つ以上の増減した勘定科目を選ぶ。
- Step3** それぞれの勘定科目を5要素の増減（発生・消滅）のルール（P13）に従って借方または貸方に記入する。
- Step4** それぞれの勘定科目について増減（発生・消滅）した金額を計算（決定）する。

なお、仕訳の借方金額と貸方金額は必ず一致します（**貸借平均の原理**^{たいしやくへいきん げんり}）。

Step1 取引の内容を把握する。

〈取引例〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

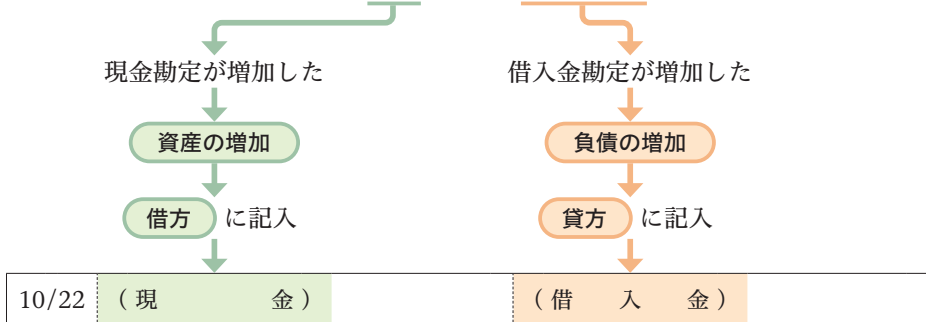
Step2 2つ以上の増減した勘定科目を選ぶ。

〈取引例〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。



Step3 それぞれの勘定科目を5要素の増減（発生・消滅）のルール（P13）に従って借方または貸方に記入する。

〈取引例〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。



Step4 それぞれの勘定科目について増減（発生・消滅）した金額を計算（決定）する。

〈取引例〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

現金勘定と借入金勘定が100円増加した

10/22	(現金)	100	(借入金)	100
-------	------	-----	-------	-----

上記 Step1 から Step4 により仕訳を行うと下記ようになります。

10/22	(現金)	100	(借入金)	100
↑	↑	↑	↑	↑
日付	借方の勘定科目	借方の金額	貸方の勘定科目	貸方の金額

2 転記

仕訳をもとにして、借方・貸方それぞれの科目の勘定に書き移します。これを、「仕訳を勘定に転記する（勘定記入する）」といいます。

各勘定を綴った帳簿を総勘定元帳そうかんじょうもとちようといい、総勘定元帳の記録が、財務諸表を作成するときの基礎となります。

次の Step1 から Step3 の順で転記（勘定記入）を行います。

Step1 仕訳の借方・貸方の科目と金額を確認する。

Step2 該当する科目の勘定を選ぶ。

Step3 仕訳の借方記入はその勘定の借方に、貸方記入はその勘定の貸方に記入する。

なお、記入する内容は、日付・相手勘定科目・金額の3つです。

〈取引例〉10月22日に銀行から現金100円を借り入れた。

Step1 仕訳の借方・貸方の科目と金額を確認する。

日付	借方の勘定科目	借方の金額	貸方の勘定科目	貸方の金額
↓	↓	↓	↓	↓
10/22	(現金)	100	(借入金)	100

10/22 付で「現金」勘定の借方に
100円記録しなさいという指示

10/22 付で「借入金」勘定の貸方に
100円記録しなさいという指示

Step2 該当する科目の勘定を選ぶ。

Step3 仕訳の借方記入はその勘定の借方に、貸方記入はその勘定の貸方に記入する。

+	現金	資産	-	-	借入金	負債	+
→	10/22	100			10/22	100	←

これにより10月22日付で現金勘定に現金が100円増加したと、借入金勘定に借入金が増加したことが記録されます。

(仕訳の) 右は、(勘定の) 右に
(仕訳の) 左は、(勘定の) 左に転記します。

ただし、このままでは10月22日に現金がなぜ増加したのか、借入金として何を受け取ったのかが判明しないので、日付と金額の間に**補足情報**として**相手勘定科目**を付け加えます。

なお、相手勘定科目が2つ以上(複数)ある場合には、相手勘定科目を複数記入する代わりに「**諸口**」と記入します。

+	現 金	資産	-	-	借 入 金	負債	+
	10/22 借入金 100				10/22 現金 100		
	↑				↑		
	相手勘定科目				相手勘定科目		

これにより、現金勘定を見れば、10月22日に現金が100円増加したと、**現金100円の増加は借入れによる**ことが判明します。

また、借入金勘定を見れば、10月22日に借入金が増加したと、**借入れにより受け取ったのは現金である**ことが判明します。

相手勘定科目から考えると混乱しやすいので、まずは①日付と金額を転記して②相手勘定科目を記入します。



例題 01

仕訳と転記

次の1年間の取引を、日付順に仕訳し、勘定に転記しなさい。なお、仕訳と転記に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

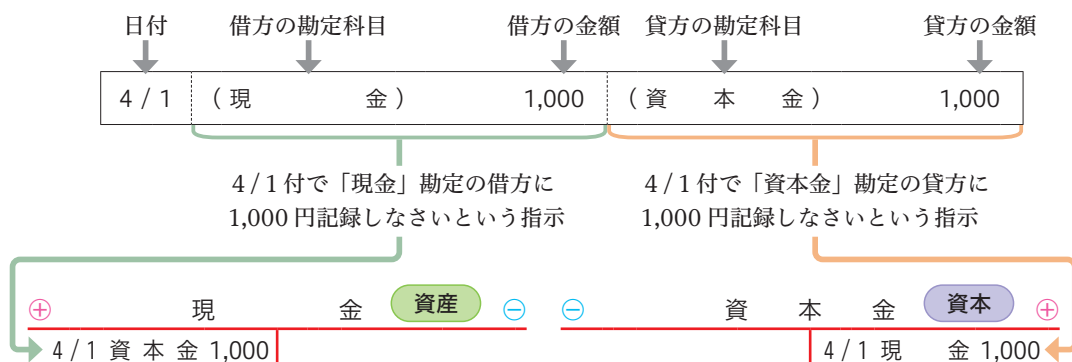
勘定科目 現金 借入金 資本金 売上 仕入

1. 4月1日、株式会社設立にあたり、株式を1,000円で発行し、株主より現金で受け取った。
2. 8月1日、銀行より現金1,000円を借り入れた。
3. 11月1日、商品700円を仕入れ、代金は現金で支払った。
4. 2月1日、商品を900円で販売し、代金は現金で受け取った。

1. 4月1日：会社の設立

会社設立時に株式を発行し、その株式を購入した株主から資金提供（現金の受け取り）を受け活動資金とします。

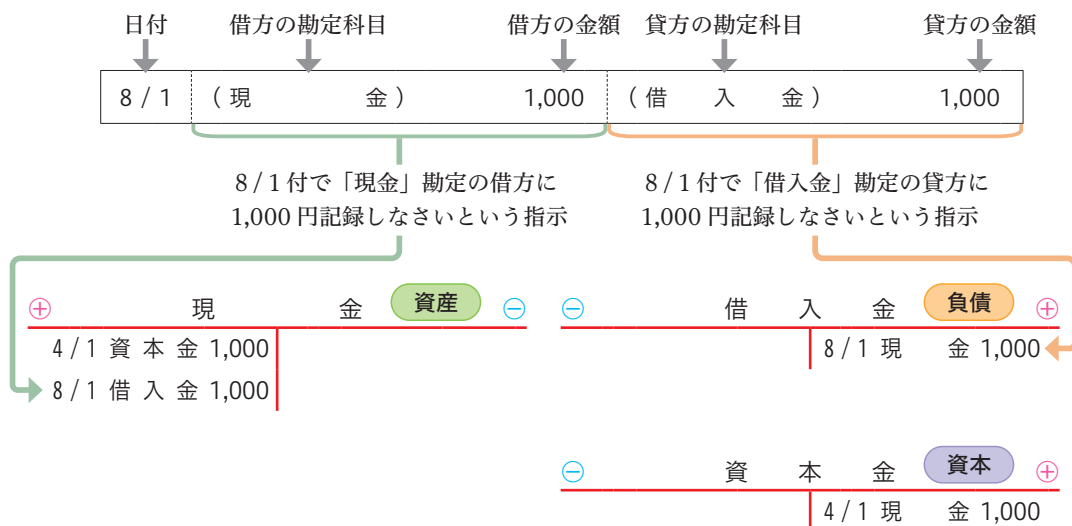
現金の受け取りにより**現金（資産）の増加**を記録します。また、株式を発行することにより、株式会社の元手である**資本金（資本）の増加**を記録します。



2. 8月1日：借入れ

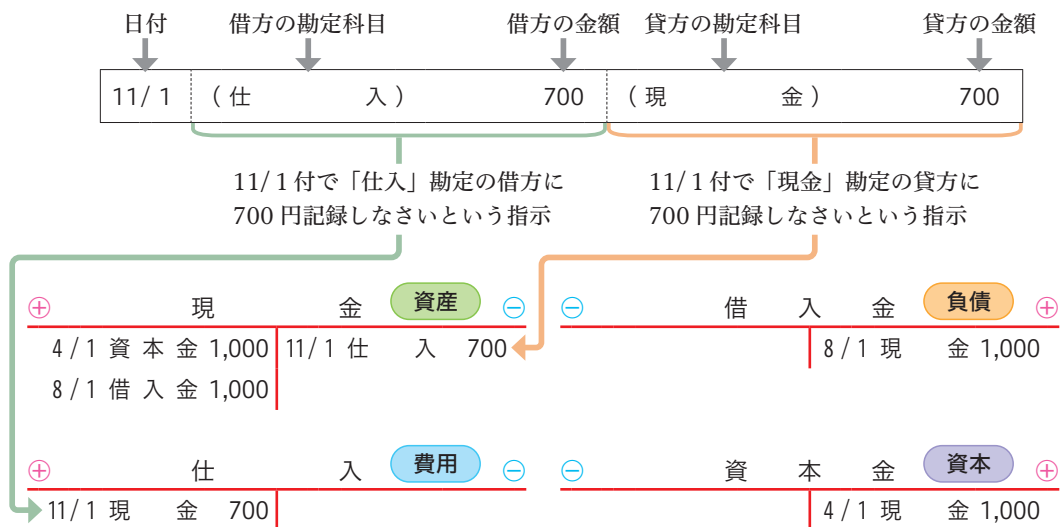
借入れとは、他者から資金を提供してもらい、あとで返す契約を結ぶことです。

現金を借りたことで**現金（資産）が1,000円増加**します。また、借り入れた現金はあとで銀行に返さなければならない**借入金（負債）の増加**として記録します。



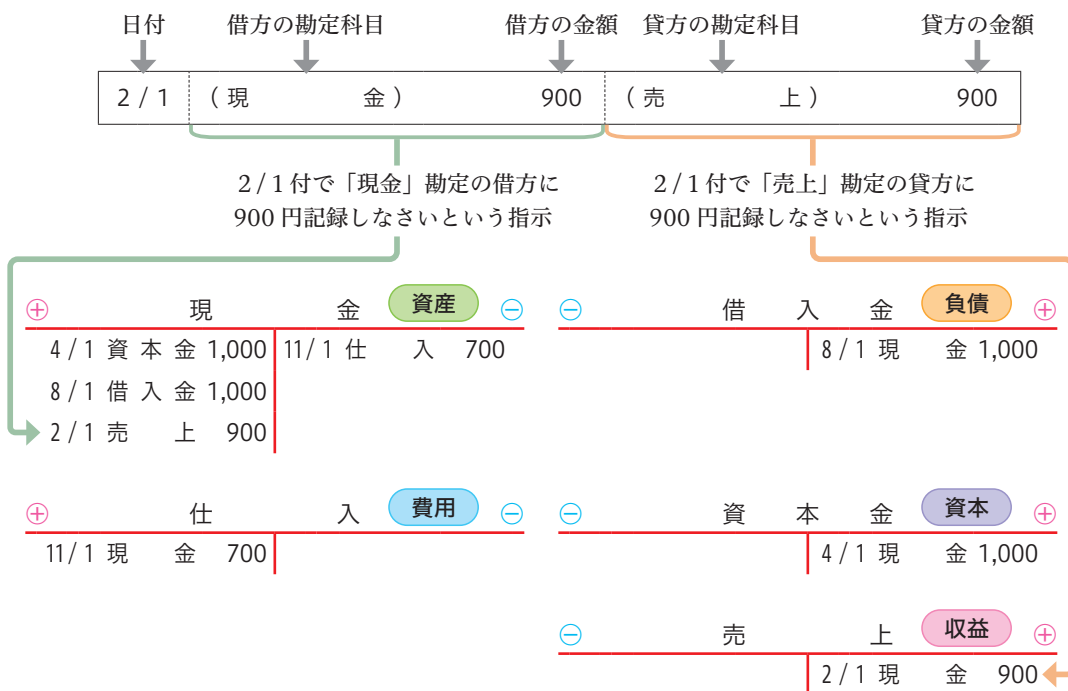
3. 11月1日：仕入れ

仕入れとは、販売するための物品（商品）を購入することです。仕入れることで商品700円が増加しますが、このあと商品を販売することにより、売上収益を得ることを見越して、売上収益を獲得するための費用が発生したと考え、**仕入（費用）の発生**として記録し、支払った700円は**現金（資産）の減少**として記録します。



4. 2月1日：販売（売り上げ）

販売する（売り上げる）とは、「商品を引き渡すこと」と、「代金を受け取ること」をいいます。受け取った代金900円は**現金（資産）の増加**として記録し、引き渡した商品については**売上（収益）の発生**として記録します。



次の取引を，1. 日付順に仕訳し，2. 転記しなさい。なお，仕訳と転記に用いる勘定科目は次の中から選ぶこと。

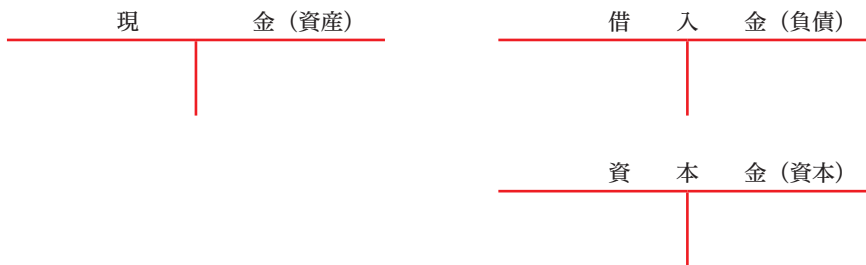
勘定科目 現金 借入金 資本金

4月1日，株式会社設立にあたり，株式を2,000円で発行し，株主より現金で受け取った。
7月1日，銀行より現金1,500円を借り入れた。

1. 仕 訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4 / 1				
7 / 1				

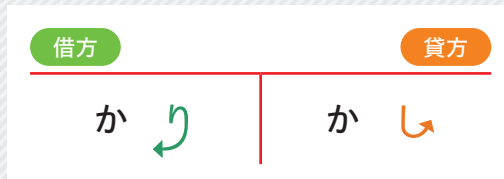
2. 転 記



Supplement

借方と貸方

借方と貸方は，取引を勘定の左右に分けて記入するときの左側と右側を表す簿記独自の呼び方です。元々は借り手や貸し手という意味がありましたが，現在はそのような意味はなくなっているのです。単に，「かりかた」は「り」が左にはらうので，「左側」を表すもの，「かじかた」は「じ」が右にはらうので，「右側」を表すものと覚えましょう。

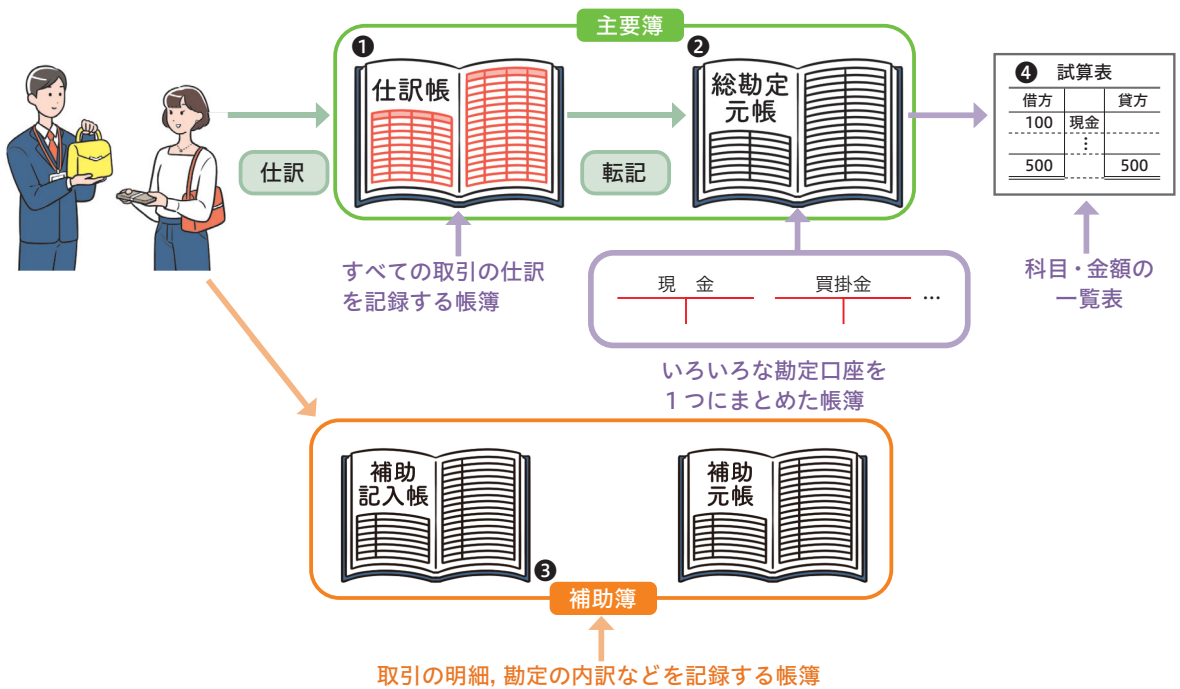


3 記帳手続（日常の手続き～帳簿への記録～）

期中においては、取引を①仕訳帳に日付順に仕訳し、次に、仕訳の指示により②総勘定元帳の勘定に転記します。この仕訳と転記が、簿記の手続きにおいて最低限必要な記録です。この2つを記録する帳簿（①仕訳帳と②総勘定元帳）を総称して**主要簿**といいます。

なお、主要簿には、基本的に「日付・勘定科目・金額・借方と貸方による増減（発生・消滅）」を記録します。その他の内容（取引の相手先、取引の条件など）の記録を行う場合は、任意で帳簿を設けます。これを**③補助簿**といいます。

毎日の取引を記録することで、総勘定元帳のページ数が増え、科目の種類や記載内容を把握しづらくなってきます。そこで、定期的に勘定科目と金額の一覧表を作成します。これを**④試算表**といいます。また、試算表は転記の誤りを確認するためにも用いられます。



③の補助簿には、特定の取引の詳細を発生順に記録していくことにより、仕訳帳を補助する**補助記入帳**と、各勘定の内訳明細を記録していくことにより、総勘定元帳を補助する**補助元帳**があります。

なお、帳簿体系や帳簿の種類、形式等については、テーマ05・14で学習します。

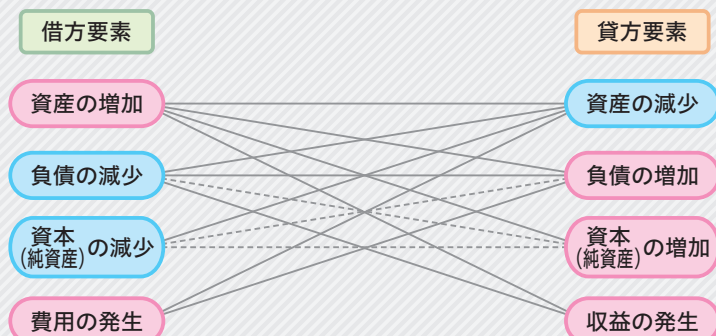


Supplement

取引の8要素

簿記上の取引は、次に示す借方要素と貸方要素の結びつきにより整理できます。収益と費用の消滅は、一般的な取引ではないので、あまり考えなくてもよいでしょう。

取引の8要素

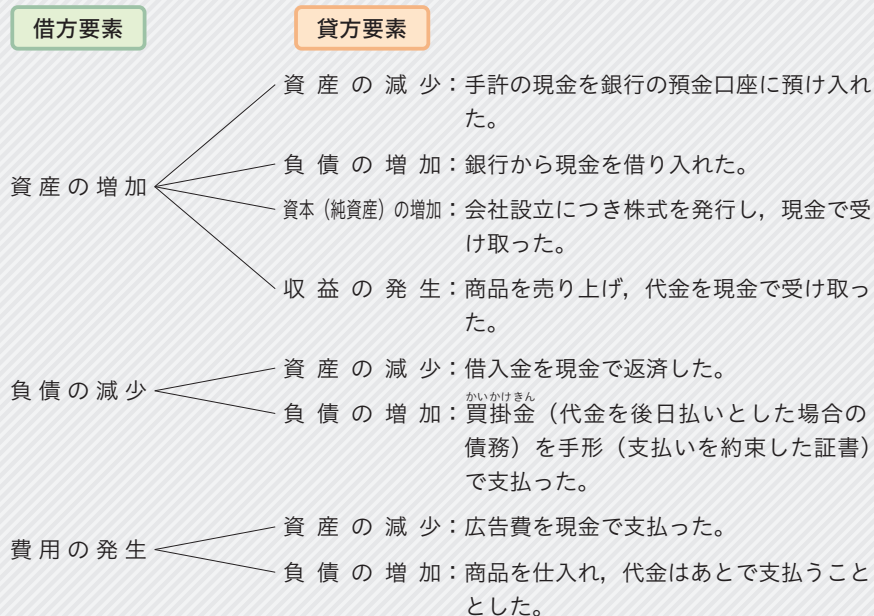


(注) 点線で結ばれた取引は、まれにしか生じません。

取引は、上の図の8つの要素の結びつきで整理することができるため、これを**取引の8要素**といいます。

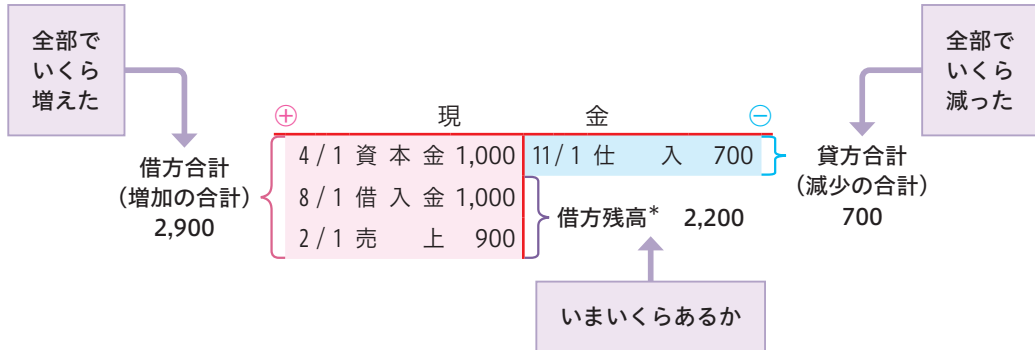
なお、借方要素と借方要素、貸方要素と貸方要素が結びつくことはありません。

借方要素と貸方要素が結びつく取引の例をあげると次のとおりです。



4 合計・残高

たとえば、**例題 01** の「現金」は資産の科目なので、借方は増加、貸方は減少を表します。現金勘定の記録により、いつ、いくら増えて（全部でいくら増えて：合計）、いつ、いくら減って（全部でいくら減って：合計）、いま、いくらあるか（借方の合計と貸方の合計の差額によって求められる：残高）などがわかります。



* 残高とは、借方合計と貸方合計の差額をいいます。
借方合計2,900 - 貸方合計700 = 2,200 (借方残高)



Supplement

数字・文字の記入の仕方について

仕訳帳や総勘定元帳に数字や文字を記入する際には、次の点に注意しながら丁寧に書きましょう。記録した内容は、書いた本人だけが見るのではなく、他人の目にもふれるので、読み誤ることがないように、正確に書かなければなりません。

- ① 数字は下の線につけて書きます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

- ② 文字は丁寧に、行間の3分の2程度の大きさで、数字は行間の2分の1程度の大きさで書きます。

東京株式会社 1 2 3

- ③ 数字は3桁ごとにコンマ「,」で区切ります。コンマは筆記体で「,」（左下向き）で書きます。「.」や「.」だとピリオドや小数点になるので注意しましょう。

1,234,567,890 円
↑ ↑ ↑
十億 百万 千

ちょっと
ひといき



複式簿記のはじめ

イタリアの数学者ルカ・パチオリ (Lucas Pacioli) が出版した『ズンマ』という本が、複式簿記についてのはじめての解説書といわれています。

1494年に刊行された、正式には『算術・幾何・比および比例全書 (Summa de Arithmetica Geometrica, Proportional et Proportionalita)』という数学の本の中で、「計算および記録詳論 (Partiularis de Computis et Scripturin)」というタイトルで、複式簿記について詳しく紹介されています。彼が『ズンマ』を刊行したのは49歳のときでした。

彼は1445年、イタリア北部の小さな田舎町で生まれ、少年期に宗教学校で文法、討論術などを学び、さらに当時の名高い芸術家、数学者からも教えを受けました。

青年期にはイタリアのベネチアに行き、豪商の家庭教師となり、この地で数学者としての基礎を築いたといわれています。30代のころ僧団に入団し、その後ピサ大学、ボローニャ大学など各地の大学で数学を教え、晩年は故郷に帰り修道院長となったそうです。

5 試算表の作成 (テーマ15で学習)

1 試算表とは

総勘定元帳の各勘定科目の記録を一覧表にしたものを**試算表 (Trial Balance : T/B)**といいます。試算表で一定時点の勘定記録全体を一覧し、誤りがないか確認します。

試算表は以下のように作成します。

Step1 総勘定元帳から、すべての勘定科目を書き出します。

Step2 勘定科目ごとに、金額を計算し記入します。

記入する金額は、試算表の種類によって、借方・貸方それぞれの合計、借方と貸方の差額で求める残高などがあります。

2 試算表の種類

試算表は集計の仕方によって、**合計試算表**、**残高試算表**、**合計残高試算表**の3種類があります。

例題 01 の現金勘定で示すと以下のようになります。

借方		貸方	
4/1 資本金 1,000	11/1 仕入 700	貸方合計 700	
8/1 借入金 1,000		借方残高 2,200	
2/1 売上 900			
借方合計 2,900			

合計試算表

借方	勘定科目	貸方
2,900	現金	700

勘定の借方合計と貸方合計を集計した一覧表です。

残高試算表

借方	勘定科目	貸方
2,200	現金	

勘定の借方残高または貸方残高を集計した一覧表です。

合計残高試算表

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
2,200	2,900	現金	700	

合計試算表と残高試算表を1つにまとめた一覧表です。

試算表の種類は、その名前に注目しましょう。

- ・勘定の**合計**を集計するから**合計試算表**
- ・勘定の**残高**を集計するから**残高試算表**
- ・勘定の**合計**と**残高**をどちらも集計するから**合計残高試算表**



例題 02

残高試算表の作成

例題 01 の勘定記録をもとに、残高試算表を作成しなさい。

現 金 (資産)		借 入 金 (負債)	
4/1 資本金 1,000	11/1 仕入 700		8/1 現金 1,000
8/1 借入金 1,000			
2/1 売上 900			
仕 入 (費用)		資 本 金 (資本)	
11/1 現金 700			4/1 現金 1,000
		売 上 (収益)	
			2/1 現金 900

残高試算表
×2年3月31日

借方	勘定科目	貸方
2,200	現金	
	借入金	1,000
	資本金	1,000
	売上	900
700	仕入	
2,900		2,900

1,000円 + 1,000円 + 900円 - 700円

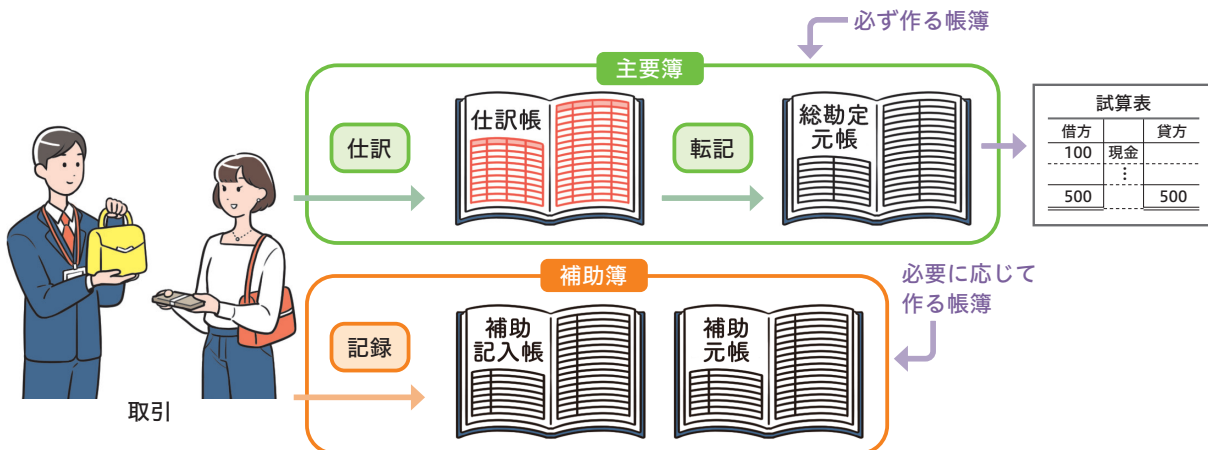
3 転記の正確性の検証

仕訳は、借方と貸方の金額がつねに一致します。転記のとき勘定の借方に記入した金額は、必ずほかの勘定の貸方にも記入するので、すべての勘定の借方総合計と貸方総合計、さらに借方残高と貸方残高のそれぞれの総合計も必ず一致します（貸借平均の原理）。このことから、試算表の貸借が一致するかどうかによって、転記ミスの有無を検証することができます。ただし、誤った仕訳であっても金額が一致しているときは、試算表では検証できません。

6 日常の手続きのまとめ

期中における簿記の日常の手続きをまとめると次のようになります。

簿記の日常の手続き



ここが POINT

記帳のルールは以下のとおりである。

- ①**資産と費用は、増加（発生）を借方**，減少（消滅）を貸方に記録し，**負債と資本と収益は、増加（発生）を貸方**，減少（消滅）を借方に記録する。
- ②**主要簿には「日付・勘定科目・金額」を記録し**，その他の詳細な内容は補助簿に記録する。
- ③仕訳の借方金額合計，貸方金額合計は必ず一致する。

ちょっとひととき



帳簿のはじめ

古代ローマでは、ワックスを塗った「ロウ塗板」をいくつか結びつけたものを帳簿として使用していました。これをコーデックスといい、ラテン語で木の幹、木片を意味します。

その後、帳簿の素材は羊皮紙（パーチメント）、さらにパピルス・紙へと変わっていきます。板の帳簿では運ぶのが大変だったでしょうね。

ルカ・パチオリが刊行した『ズンマ』では、元帳は帳簿の見開き1ページの左面と右面を、それぞれ借方、貸方とすると解説されており、19世紀までこの方式が続いていたようです。

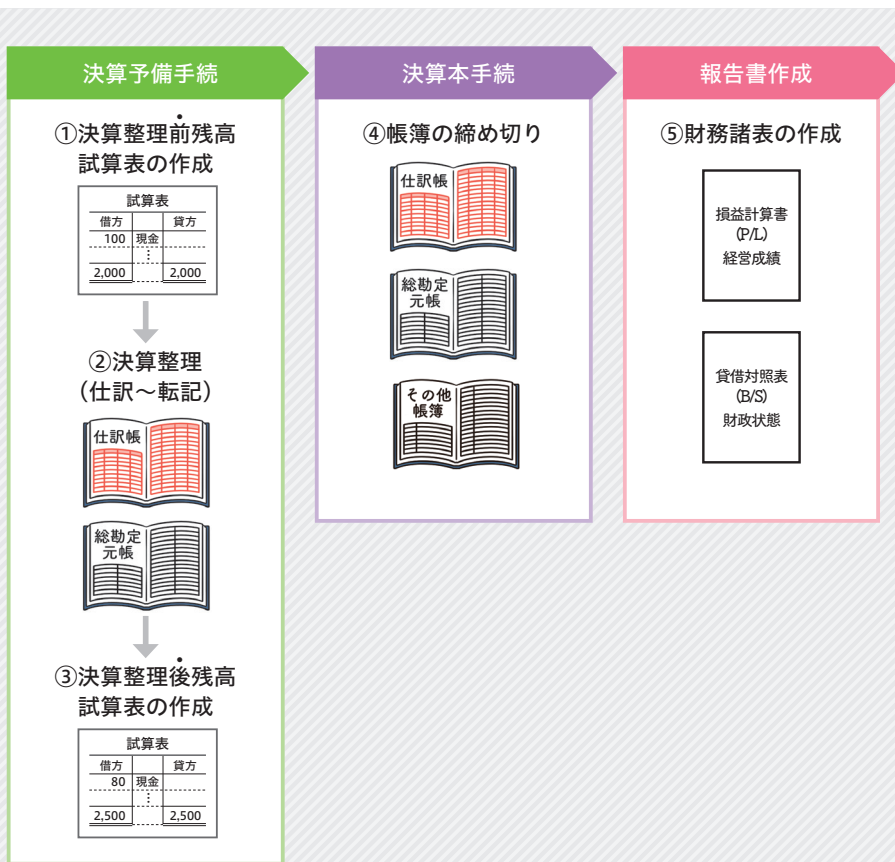
昔、紙は高価なものだったはずですが、ずいぶん贅^{ぜいたく}沢な使い方をしていたようですね。



Supplement

期末の手続き～決算～

期末に、勘定記録の一覧である試算表（①**決算整理前残高試算表**）を作成します。この試算表をもとにして、勘定記録の確認や修正を行います。これを②**決算整理**といい、必要な修正について、仕訳と転記を行い、③**決算整理後残高試算表**を作成します。決算整理後の各勘定残高が1年間の経営成績と期末の財政状態を表す最終的な金額です。ここで④**各帳簿を締め切り**，最後に外部報告用の⑤**財務諸表（貸借対照表と損益計算書）**を作成します。期末に行われるこの手続きを、**決算**または**決算手続**といいます。



なお、決算手続については、テーマ16以降で詳しく学習します。

1 決算整理前残高試算表の作成

すべての期中取引の仕訳と転記が終わったら、決算整理前の残高試算表を作成します。この試算表をもとにして決算の手続きを進めます。

決算整理前残高試算表

×2年3月31日

ホントに2,200円あるかな？

売れ残りはないかな？

借方	勘定科目	貸方
2,200	現金	
	借入金	1,000
	資本金	1,000
	売上	900
700	仕入	
2,900		2,900

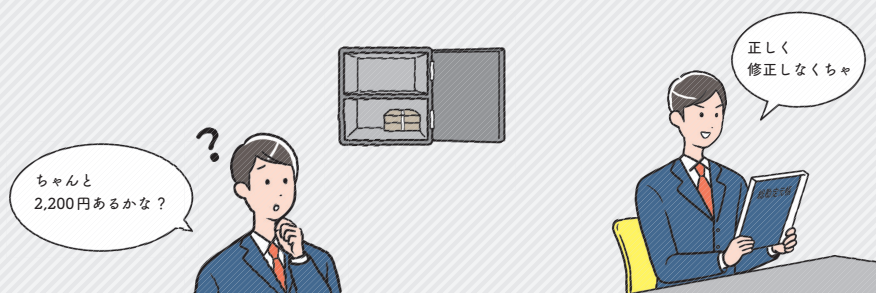
今年の収入は900円。もうけはいくら？

2 決算整理

試算表（勘定記録）をもとに、各勘定残高を確認し、必要な修正を行います。

- ・現金について実査して、本当にその金額があるかどうか確認する。
- ・商品の売れ残りがどうか確認し、売れた金額を計算する。
- ・使用している建物などの価値の減少を計算をする。
- ・納付する法人税などの金額を計算する。 など

なお、決算整理の内容が明らかになったら、^{せいざんひょう}精算表を用いて、貸借対照表や損益計算書に記載する金額を計算します。



3 決算整理後残高試算表の作成

決算整理の仕訳と転記が終わったら、決算整理後の残高試算表を作成し、修正後の勘定残高に誤りがないか検証します。

4 帳簿の締め切り

さらに、決算では、財務諸表を作成する前に、帳簿上で会計期間の区切りをつけるため、締め切りの手続きを行います。



5 財務諸表の作成

決算整理後（締め切り後）の金額をもとに、財政状態と経営成績を報告するために貸借対照表と損益計算書を作成します。



例題

財務諸表の作成

次の期末における決算整理後残高試算表により、貸借対照表と損益計算書を作成しなさい（会計期間は×1年4月1日から×2年3月31日の1年とする）。

決算整理後残高試算表

×2年3月31日

	借方	勘定科目	貸方	
B/S：借方	2,200	現金		
		借入金	1,000	負債 B/S：貸方
		資本金	1,000	資本 B/S：貸方
		売上	900	収益 P/L：貸方
P/L：借方	700	仕入		
	2,900		2,900	

貸借対照表

貸借対照表は、一定時点の財政状態を表す資産・負債・資本（純資産）の報告書です。

貸借対照表

×2年3月31日

現金 2,200	借入金 1,000
	資本金 1,000
	繰越利益剰余金(注) 200

損益計算書

損益計算書は、一定期間の経営成績を表す収益・費用の報告書です。

仕入勘定は「売上原価」と表示します

損益計算書

×1年4月1日～×2年3月31日

売上原価 700	売上高 900
当期純利益(注) 200	

売上勘定は「売上高」と表示します

(注) 損益計算書における収益と費用の差額が当期純利益です。貸借対照表では、繰越利益剰余金（資本）として表示します。

ちょっと
ひといき



本当の最初の簿記の本

複式簿記についての最初の解説書は、ベネディット・コトルーリという裁判官が書いた『商業と完全な商人』といわれています（1458年）。『ズンマ』刊行より36年前のことでしたが、この本の原稿はそのまま115年間、ナポリでだれの目にもふれることなく、眠りつづけました。
悲運というほかないですね。



Supplement

純損益の計算

会社がいくらもうけたか、という純損益の計算方法には、ざいさんほう 財産法と そんえきほう 損益法の2つがあります。

1 財産法による純損益の計算

財産法とは、期末資本（純資産）の額から期首資本（純資産）の額を差し引くことで、一会計期間の損益を求める方法です。この方法は、もうけていればそれだけ現金などの資産が増え、損をしていればそれだけ現金などの資産が減っているという考えにもとづいています。

$$\begin{aligned} & \text{期末資本（純資産）の額} - \text{期首資本（純資産）の額} \\ & = \text{当期純利益（マイナスのときは当期純損失）} \end{aligned}$$



例題

財産法による純損益の計算

次の資料により、当期の純損益を求めなさい。

	期首資産	期首負債	期首資本	期末資産	期末負債	期末資本	当期純損益
(1)	80,000円	30,000円	50,000円	85,000円	30,000円	55,000円	? 円
(2)	100,000円	68,000円	32,000円	98,000円	68,000円	? 円	? 円

財産法による純損益の計算

(1) 期末資本（純資産）55,000円 - 期首資本（純資産）50,000円 = 当期純利益5,000円

〈期首〉B/S		〈期末〉B/S	
期首資産	80,000	期末資産	85,000
期首負債	30,000	期末負債	30,000
期首資本	50,000	期末資本	55,000
		当期純利益	5,000

- (2) 期末資産 98,000円 - 期末負債 68,000円 = 期末資本 (純資産) 30,000円
 期末資本 (純資産) 30,000円 - 期首資本 (純資産) 32,000円 = 当期純損失 △ 2,000円

(期首) B/S			(期末) B/S	
期首資産 100,000	期首負債 68,000	-----	期末資産 98,000	期末負債 68,000
	期首資本 32,000			期末資本 30,000
		当期純損失 △ 2,000		

2 損益法による純損益の計算

資本 (純資産) は、収益による資産などの増加と費用による資産などの減少が原因で増減します。損益法とは、この考え方を用いて、その増加原因である収益の総額と減少原因である費用の総額との差額により、純損益を求める方法です。

$$\text{収益の総額} - \text{費用の総額} = \text{当期純利益 (マイナスのときは当期純損失)}$$

なお、資本 (純資産) の増減の結果から求める財産法と、原因から求める損益法の計算結果は必ず一致します。



例題

損益法による純損益の計算

次の資料により、当期の純損益を求めなさい。

期首資本	期末資産	期末負債	期末資本	収益の総額	費用の総額
50,000円	85,000円	30,000円	55,000円	83,000円	78,000円

損益法による純損益の計算

収益の総額 83,000円 - 費用の総額 78,000円 = 当期純利益 5,000円

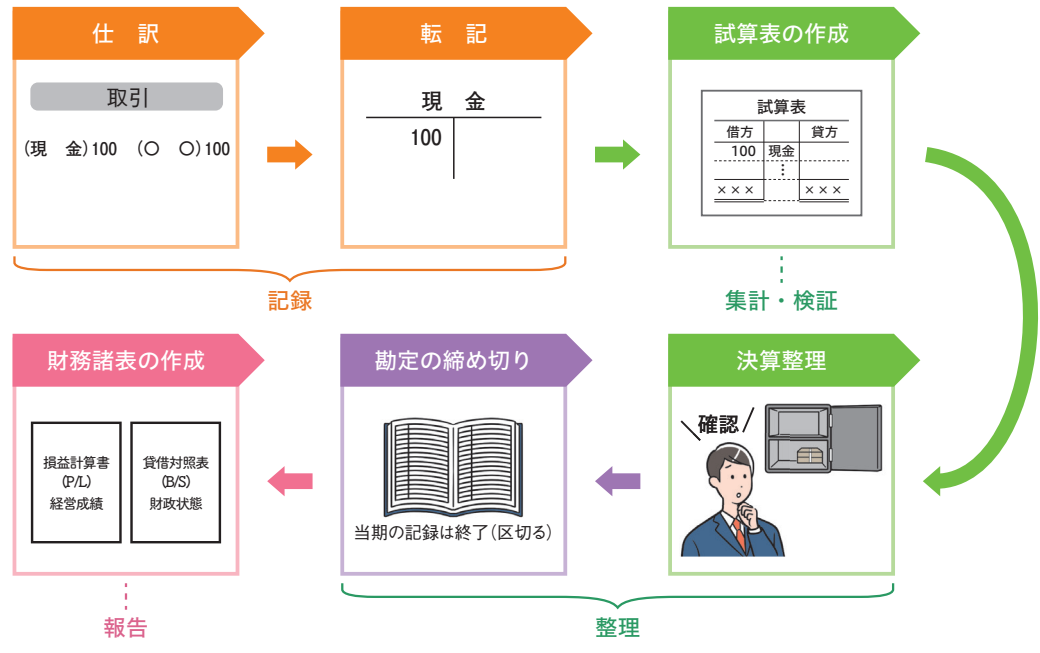
または、

期末資本 (純資産) 55,000円 - 期首資本 (純資産) 50,000円 = 当期純利益 5,000円

(期首) B/S			(期末) B/S	
期首資産	期首負債	-----	期末資産 85,000	期末負債 30,000
	期首資本 50,000			期末資本 55,000
		当期純利益 5,000	P/L	収益の総額 83,000
		費用の総額 78,000		

7 簿記一巡の手続き

決算をもって簿記の手続きは終わり、次期以降これを繰り返すことになります。この、仕訳に始まり決算で終わる一連の手続きを簿記一巡の手続きといいます。



Supplement

簿記で使われている略表記

簿記関係の教材や実務では、略語・記号等をよく使います。代表的なものをいくつか挙げたので参考にしてください。本書でも一部使用しています。

用語	英語	内容	表記
勘定(口座)	Account	記録する場所	a/c
借方	Debtor	左側	Dr
貸方	Creditor	右側	Cr
財務諸表	Financial Statements	貸借対照表や損益計算書など	F/S
貸借対照表	Balance Sheet	財政状態の報告書	B/S
損益計算書	Profit and Loss statement	経営成績の報告書	P/L
試算表	Trial Balance	勘定記録の集計表	T/B
精算表	Work Sheet	決算手続の計算表	W/S
単価		単位表示 (1単位あたり)	@

8 これからの簿記学習について

近年の簿記の手続きは、コンピュータを利用して行うことが一般的となっています。企業は、業務の合理化のため、コンピュータを活用し、経費削減や迅速な情報活用に役立てています。実際に、コンピュータを用いて簿記の手続きを行うと、「転記」「試算表の作成」「財務諸表の作成」などはボタン1つであっという間に済んでしまいます。

しかし、「仕訳（取引の記録）」や、「決算整理（確認・修正）」は、コンピュータに委ねることができない部分があります。また、コンピュータ処理の結果として出力された各種資料がどのようにして作られたものなのかを理解していなければ、その資料をどう分析し、活用するか正しく判断することができません。

簿記の学習を行うこと、つまり、コンピュータの力を借りずに、実際に紙ベース（頼りとするのは己の頭脳と電卓のみ）で手続きを学習することは、単に入力作業のための知識ではなく、情報を正しく理解することにつながります。

ちょっと
ひといき



借方と貸方ってどんな意味

『ズンマ』では「借方につねに1人あるいはそれ以上の債務者を表し、貸方は1人あるいはそれ以上の債権者を示す」とあり、取引はすべてこの2つに分解されるという複式仕訳法が強調されています。

また、『明解ドイツ式簿記』（1531年）の著者であるゴートリーブは、貸借について次のような解説を行っています。

- ・「貸し」は元帳の右である。なぜならば、信用・信頼は右手で表現される。
- ・財貨の受け入れは左である。なぜならば、保有することは「売る・渡す」ことに先行するからである。

これは、貨幣などの受け入れは先行するので第1の側である借方へ、その引き渡しはあとなので第2の側である貸方へ書くことを意味しています。

貸すのが信用・信頼ならば、借りるのも信用・信頼だと思うのですが…。

確認問題 01

① (貸借対照表) ② (損益計算書) ③ (利害関係者) ④ (会計期間)

確認問題 02

① (資産) ② (負債) ③ (資本) ④ (収益) ⑤ (費用)

確認問題 03

1, 4

確認問題 04

1. 仕訳

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現金	2,000	資本金	2,000
7/1	現金	1,500	借入金	1,500

2. 転記

現	金 (資産)	借	入金 (負債)
4/1 資本金 2,000			7/1 現金 1,500
7/1 借入金 1,500			
		資	本金 (資本)
			4/1 現金 2,000

確認問題 05

1. (仕入) 2,000 (現金) 2,000
 2. (現金) 2,700 (売上) 2,700

確認問題 06

1. (仕入) 2,000 (買掛金) 2,000
 2. (売掛金) 2,700 (売上) 2,700
 3. (買掛金) 1,600 (現金) 1,600
 4. (現金) 2,500 (売掛金) 2,500

.....

問題編

.....

合格トレーニング

日商簿記 3 級

簿記の意義

問題 1-1 ★★

理解度チェック

次の文章のカッコ内に当てはまる適切な語句を下記の〈語群〉から選びなさい。

簿記の目的は、企業の（①）状態と（②）成績を明らかにすることである。

企業の一会計期間における（②）成績を表す報告書を（③）といい、企業の期末における（①）状態を表す報告書を（④）という。

〈語群〉

貸借対照表 損益計算書 財政 経営

解答欄

解答(3)ページ

①	②	③	④

問題 1-2 ★★

理解度チェック

次の文章のカッコ内に当てはまる適切な語句を下記の〈語群〉から選び、記入しなさい。

企業は継続して活動を行うため、通常1年間で区切って報告書を作成する。この区切られた期間を（①）といい、株式会社の場合は、これを自由に定めることができる。

（①）の開始の日を（②）、終わりの日を（③）といい、（②）と（③）のあいだのことを（④）という。また、現在の（①）を（⑤）、ひとつ前の（①）を（⑥）、ひとつ後の（①）を（⑦）または翌期という。

〈語群〉

会計期間 前期 当期 次期 期首 期中 期末

解答欄

解答(3)ページ

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	

財務諸表と簿記の5要素

問題 2-1 ★★★

理解度チェック

次に示す貸借対照表と損益計算書のカッコ内に当てはまる適切な語句（簿記の5要素）を下記の〈語群〉から選び、記入しなさい。

〈語群〉

資産 負債 資本 収益 費用

解答欄

解答(4)ページ

貸借対照表

()	()
	() (純資産)

損益計算書

()	()
-----	-----

問題 2-2 ★★

理解度チェック

次の文章のカッコ内に当てはまる適切な語句を下記の〈語群〉から選び、記入しなさい。

簿記の手続きにおいては、記録や報告のために (①), (②), (③), (④), (⑤) の5つに分類される。これを簿記の5要素という。

(①) は、企業が活動のために所有するものをいい、現金や建物のような財貨と、貸付金のような債権 (権利) がある。(①) は (⑥) の左側に記載する。

(②) は、借入金など、将来支払わなければならない債務 (義務) をいい、(⑥) の右側に記載する。

(③) は、(①) から (②) を差し引いて求められるもので、元手、純資産ともよばれる。(③) は (⑥) の右側に記載する。

企業の活動に費やされた支出などのことがらを示す内容を (⑤) といい、その活動によって得られる収入などのことがらを示す内容を (④) という。(④) は (⑦) の右側に、(⑤) は左側に記載し、両者の差額として当期純損益を算定する。

〈語群〉

貸借対照表 損益計算書 資産 負債 資本 収益 費用

解答欄

解答<4>ページ

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	

日常の手続き

問題 3-1 ★★

理解度チェック

次の(1)~(8)について、簿記上の取引となるものには○で、簿記上の取引とならないものには×で答えなさい。

- (1) 店舗の建物を1年間(1か月の家賃50,000円)借りる契約をした。
- (2) 店頭に並べていた販売用の商品10,000円が盗まれた。
- (3) 商品75,000円を、電話で注文した。
- (4) 商品60,000円を購入し、代金は現金で支払った。
- (5) 金庫で現金10,000円を保管していたはずが、9,500円しかないことに気がついた。
- (6) 従業員を1か月の給料200,000円の契約で雇い入れた。
- (7) 給料日に1か月分の給料200,000円を現金で支払った。
- (8) 銀行より現金50,000円を借り入れた。1か月後に返済する予定である。

解答欄

解答(5)ページ

(1)	(2)	(3)	(4)
(5)	(6)	(7)	(8)

問題 3 - 2 ★★ ★

理解度チェック

次の各勘定（要素）について，増加（発生）ならば「+」，減少（消滅）ならば「-」の記号を，カッコ内に記入しなさい。

解答欄

解答(5)ページ

資 産	負 債				
()	()				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">資 本</td> <td style="width: 50%; text-align: center; border-bottom: 1px solid black;">資 本</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; text-align: center;">()</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; text-align: center;">()</td> </tr> </table>		資 本	資 本	()	()
資 本	資 本				
()	()				
費 用	収 益				
()	()				

問題 3 - 3 ★★ ★

理解度チェック

次の①～⑫の文章を意味する語句を，語群 A～Sの中から選びなさい。

- ① 一定時点のすべての勘定科目とその金額（合計・残高等）を一覧表にしたもの
- ② 仕訳などの左側を指す用語
- ③ 簿記の5要素を勘定科目別に記録する場所
- ④ 取引を借方の要素と貸方の要素に分解し勘定記入への指示を出すこと
- ⑤ 仕訳を記録しておく帳簿
- ⑥ 仕訳などの右側を指す用語
- ⑦ 仕訳を勘定口座に書き移すこと
- ⑧ 企業の活動等により，5要素に増減変化をおこすことがら（記録することがら）
- ⑨ 簿記で最低限必要とされる帳簿，仕訳帳と総勘定元帳のこと
- ⑩ 期末に行う帳簿記録の整理や報告書作成の手続き
- ⑪ 仕訳帳・総勘定元帳以外に企業が任意で設ける帳簿
- ⑫ 貸借対照表と損益計算書などの報告書のこと

〈語群〉

- | | | | | |
|-----------|----------|-----------|----------|----------|
| A. 借 方 | B. 契 約 | C. 勘定(口座) | D. 仕 訳 | E. 総勘定元帳 |
| F. 損益計算書 | G. 転 記 | H. 試算表 | I. 貸 方 | J. 財務諸表 |
| K. 簿記上の取引 | L. 利害関係者 | M. 商品売買業 | N. 補助簿 | O. 仕 訳 帳 |
| P. 主 要 簿 | Q. 企 業 | R. 決 算 | S. 貸借対照表 | |

解答欄

解答(5)ページ

①	②	③	④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫

問題 3-4 ★★

理解度チェック

次の一連の取引について仕訳し、総勘定元帳の各勘定に転記しなさい。ただし、転記は「日付と金額のみ」とし、相手勘定科目は省略する。

(指定勘定科目)

現金 借入金 資本金 売上 仕入

- 4月1日 株式会社設立にあたり、株式を100,000円で発行し、株主より現金を受け取った。
- 9月10日 現金100,000円を銀行より借り入れた。
- 1月17日 商品を60,000円で仕入れ、現金を支払った。
- 3月23日 商品を90,000円で売り上げ、現金を受け取った。

解答欄

解答(5)ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1				
9/10				
1/17				
3/23				

現金	
仕入	

借入金	
資本金	
売上	

問題 3 - 5 ★★ ★

理解度チェック

次の一連の取引について仕訳し、総勘定元帳の各勘定口座に転記しなさい。なお、4月1日の仕訳と勘定転記は済んでいる。転記にあたっては日付、相手科目、金額を記入すること。

〈指定勘定科目〉

現金 借入金 売上 仕入

4月1日 会社設立にあたり、株式を50,000円で発行し、株主より現金を受け取った。

6月1日 銀行より現金100,000円を借り入れた。

8月1日 商品70,000円を仕入れ、代金は現金で支払った。

10月1日 商品を150,000円で売り上げ、代金は現金で受け取った。

12月1日 借入金のうち80,000円を現金で返済した。

解答欄

解答(5)ページ

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現金	50,000	資本金	50,000
6/1				
8/1				
10/1				
12/1				

現金	
4/1 資本金	50,000

仕入	

借入金	

資本金	
	4/1 現金 50,000

売上	

問題 3-6 ★★★

理解度チェック

次の総勘定元帳の各勘定の記入にもとづいて、残高試算表を作成しなさい。なお、本日は期末（3月31日）である。

現 金		借 入 金	
4/1 資本金 50,000	8/1 仕 入 70,000	12/1 現 金 80,000	6/1 現 金 100,000
6/1 借入金 100,000	12/1 借入金 80,000		
10/1 売 上 150,000			
		資 本 金	
			4/1 現 金 50,000
仕 入		売 上	
8/1 現 金 70,000			10/1 現 金 150,000

解答欄

解答(6)ページ

残 高 試 算 表
×2年3月31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
	現 金	
	借 入 金	
	資 本 金	
	売 上	
	仕 入	

次の残高試算表は、決算整理後の金額である。これにもとづいて、貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。なお、仕入勘定は売上原価（売上と引き換えに渡した商品の原価：費用）を表している。会計期間は1年である。

残 高 試 算 表

×2年3月31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
150,000	現 金	
	借 入 金	20,000
	資 本 金	50,000
	売 上	150,000
70,000	仕 入	
220,000		220,000

解答欄

解答(6)ページ

貸 借 対 照 表

×2年3月31日

資 産	金 額	負債及び純資産	金 額
現 金		借 入 金	
		資 本 金	
		繰越利益剰余金	

損 益 計 算 書

×1年4月1日～×2年3月31日

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価		売 上 高	
当 期 純 利 益			

問題 3-8 ★☆☆

理解度チェック

次の解答欄の表の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。なお、当期純損失は金額の前に△印を付しなさい。

解答欄

解答(6)ページ

	期 首			期 末			収 益	費 用	純 損 益
	資 産	負 債	資 本	資 産	負 債	資 本			
1	25,000	()	()	30,000	()	25,000	9,000	()	1,000
2	60,000	()	45,000	55,000	12,000	()	()	22,000	()
3	()	26,000	17,000	()	20,000	()	()	14,000	2,000

.....

解答編

.....

合格トレーニング

日商簿記 3 級

簿記の意義

問題 1-1

①	②	③	④
財 政	経 営	損益計算書	貸借対照表

❗ 解答への道

貸借対照表 (Balance Sheet : B/S) は、企業の期末における財政状態を明らかにする報告書です。

損益計算書 (Profit and Loss Statement : P/L) は、企業の一会計期間における経営成績を明らかにする報告書です。

問題 1-2

①	②	③	④
会計期間	期 首	期 末	期 中
⑤	⑥	⑦	
当 期	前 期	次 期	

❗ 解答への道

簿記では、企業の会計期間中（期首から期末までの1年間＝期中）の活動を記録します。期末に1年間の記録を整理して報告書を作成します。

財務諸表と簿記の5要素

問題 2 - 1

貸借対照表

(資産)	(負債)
	(資本) (純資産)

損益計算書

(費用)	(収益)
------	------

❗ 解答への道

貸借対照表の左側には「資産」、右側には「負債」および「資本」の各要素を記載します。損益計算書の左側には「費用」、右側には「収益」の各要素を記載します。なお、「資本」は、貸借対照表では「純資産」と表示します。

問題 2 - 2

①	②	③	④
資産	負債	資本	収益
⑤	⑥	⑦	
費用	貸借対照表	損益計算書	

❗ 解答への道

簿記の5要素について、資産は貸借対照表の左側に、負債および資本は貸借対照表の右側に記載します。また、収益は損益計算書の右側に、費用は損益計算書の左側に記載します。

日常の手続き

問題 3 - 1

(1)	(2)	(3)	(4)
×	○	×	○
(5)	(6)	(7)	(8)
○	×	○	○

❗ 解答への道

一般の「取引」は、「相手とのやりとり」を意味しますが、「簿記上の取引」は、「資産・負債および資本に増減変化が生じること」を意味します。

問題 3 - 2

資 産		負 債	
(+)	(-)	(-)	(+)
費 用		資 本	
(+)	(-)	(-)	(+)
		収 益	
(+)	(-)	(-)	(+)

❗ 解答への道

資産と費用の要素は、増加・発生を借方（減少・消滅を貸方）に記録し、負債、資本および収益の要素は、増加・発生を貸方（減少・消滅を借方）に記録します。

問題 3 - 3

①	②	③	④	⑤	⑥
H	A	C	D	O	I
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
G	K	P	R	N	J

問題 3 - 4

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現 金	100,000	資 本 金	100,000
9/10	現 金	100,000	借 入 金	100,000
1/17	仕 入	60,000	現 金	60,000
3/23	現 金	90,000	売 上	90,000

現 金		借 入 金	
4/1 100,000	1/17 60,000		9/10 100,000
9/10 100,000		資 本 金	
3/23 90,000			4/1 100,000
仕 入		売 上	
1/17 60,000			3/23 90,000

❗ 解答への道

- 4月1日：株式の発行
現金（資産）の増加 = 借方
資本金（資本）の増加 = 貸方
- 9月10日：借入れ
現金（資産）の増加 = 借方
借入金（負債）の増加 = 貸方
- 1月17日：仕入れ
仕入（費用）の発生（増加） = 借方
現金（資産）の減少 = 貸方
- 3月23日：売上げ
現金（資産）の増加 = 借方
売上（収益）の発生（増加） = 貸方

問題 3 - 5

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現 金	50,000	資 本 金	50,000
6/1	現 金	100,000	借 入 金	100,000
8/1	仕 入	70,000	現 金	70,000
10/1	現 金	150,000	売 上	150,000
12/1	借 入 金	80,000	現 金	80,000

現金			
4/1	資本金	50,000	8/1 仕入 70,000
6/1	借入金	100,000	12/1 借入金 80,000
10/1	売上	150,000	
仕入			
8/1	現金	70,000	
借入金			
12/1	現金	80,000	6/1 現金 100,000
資本金			
	4/1	現金	50,000
売上			
	10/1	現金	150,000

❗ 解答への道

勘定への転記は、仕訳の借方であれば、その勘定口座の借方に「日付、相手勘定科目、金額」を書き移し、仕訳の貸方であれば、その勘定口座の貸方に「日付、相手勘定科目、金額」を書き移します。

問題 3 - 6

残高試算表
×2年3月31日

借方	勘定科目	貸方
150,000	現金	
	借入金	20,000
	資本金	50,000
	売上	150,000
70,000	仕入	
220,000		220,000

問題 3 - 8

	期首			期末			収益	費用	純損益
	資産	負債	資本	資産	負債	資本			
1	25,000	(1,000)	(24,000)	30,000	(5,000)	25,000	9,000	(8,000)	1,000
2	60,000	(15,000)	45,000	55,000	12,000	(43,000)	(20,000)	22,000	(△ 2,000)
3	(43,000)	26,000	17,000	(39,000)	20,000	(19,000)	(16,000)	14,000	2,000

❗ 解答への道

残高試算表は、一定時点の勘定記録の一覧表です。総勘定元帳から、勘定科目をすべて書き出し、勘定口座の借方と貸方の差額(残高)を記入します。最後に各欄の合計(試算表の一番下)を計算し、借方金額と貸方金額が一致していることを確認します。

問題 3 - 7

貸借対照表
×2年3月31日

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	150,000	借入金	20,000
		資本金	50,000
		繰越利益剰余金	80,000
	150,000		150,000

損益計算書
×1年4月1日～×2年3月31日

費用	金額	収益	金額
売上原価	70,000	売上高	150,000
当期純利益	80,000		
	150,000		150,000

❗ 解答への道

貸借対照表の借方に資産(現金)を、貸方に負債(借入金)および資本(資本金)を記載し、損益計算書の借方に費用を、貸方に収益を記載します。なお、損益計算書では仕入勘定残高は売上原価、売上勘定残高は売上高と表示します。損益計算書の貸借差額を当期純利益、貸借対照表では、繰越利益剰余金と表示します。

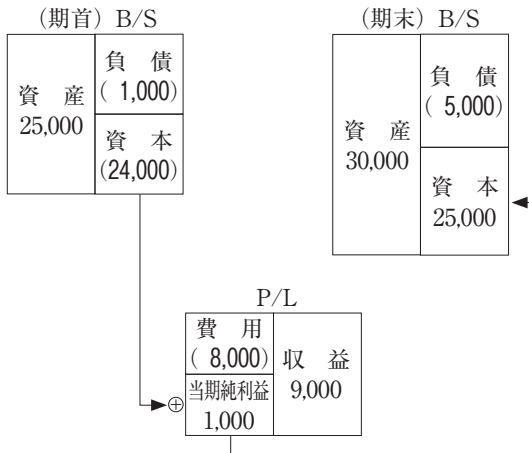
❗ 解答への道

純損益(当期純利益または当期純損失)の計算方法には次の2つがあり、両者の結果は一致します。

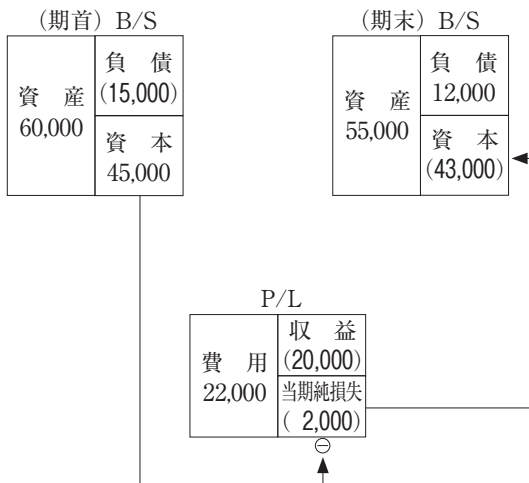
財産法：期末資本－期首資本＝当期純利益(マイナスの場合は当期純損失)

損益法：収益－費用＝当期純利益(マイナスの場合は当期純損失)

1.



2.



3.

